

## 和歌山病院での実習を終えて



寺前 友樹

私は、6月26日・27日に、呼吸器内科の病院実習の一環として和歌山病院で実習を行いました。この実習では、主に結核や画像について学ぶことができました。

駿田先生の結核セミナーでは、「結核」についてこれまでとは違った視点から学ぶことができました。N95マスクの装着や結核病棟についてなど、普通の教科書では触れられていないことについて学ぶことができました。セミナーを通して、結核に対する理解を深めることができたと同時に、適切な治療がなされれば寛解できること、適切な対応によって感染を防ぐことができることを知りました。また、結核病棟に実際に入ることができ、結核病棟の雰囲気をつかむことができました。

2日間の実習で最も印象に残ったセミナーは、南方先生のセミナーでした。このセミナーでは、CTやX線といった画像の見方についてなぜそのような画像になるのかを根本から学ぶことができ、ただ単に丸暗記をするだけではあまり身につかず、将来に役に立たないことを実感したとともに、画像に対する苦手意識をなくすことができたように感じました。

普段は大学病院で実習を行っているので、学外の病院での実習やセミナーは大変貴重でした。普段お聞きすることのない話を伺うことができ、非常に勉強になりました。2日間という短い期間でしたが、院長の南方先生を始めとする和歌山病院の先生方やスタッフの方々に心から感謝申し上げます。この経験を今後に生かせるようにさらなる努力を積み重ねていきたいと思っております。ありがとうございました。